

科目名	看護学概論		時期		時間	単位
担当教員	吉嶺 文俊・副校長		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	基礎看護学領域における看護学概論は専門分野への導入であり、各看護学の基盤となる科目である。そこで、看護学概論では看護学の基本的概念を看護の歴史や制度を踏まえて学び、看護の対象となる人間の特性と暮らしを理解する。また、日本人の健康状態、看護職の成立や看護専門職としての倫理、看護管理、医療安全、国際看護などについて広く理解する。さらに、この科目を通じて看護の初学者が看護活動を具体的にイメージするとともに、看護についての自らの考えや展望をもつことを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護の概念、看護の定義、目的が理解できる 2 看護の対象と健康の概念について理解できる 3 看護における倫理について学ぶ 4 看護提供のしくみと看護活動領域を理解する 					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	医学概論	1 近年の医療を取り巻く状況の変化				講義 (吉嶺)
2~3	看護の概念	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護の本質 (変遷・定義) 2 看護の対象・目的・目標 3 看護の継続性と連携 				講義
4~5	看護の対象	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護の対象としての人間 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間のこことからだ (2) 生涯発達しつづける存在としての人間 (3) 人間の暮らしの理解 				講義
6~7	健康の概念と国民の健康状態・生活	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康のとらえ方と健康の定義 2 国民の健康の全体像 3 国民のライフサイクルと健康・生活 4 現代の日本人の健康と生活を考える 				講義
8~9	看護の提供者	<ol style="list-style-type: none"> 1 職業としての看護 2 看護師の役割 3 保健師助産師看護師の義務 4 看護師の資格と養成にかかわる制度 5 看護職者の就業状況と継続教育 				講義
10~11	看護における倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と倫理 2 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3 看護実践における倫理問題への取り組み 				講義
12~13	看護の提供の仕組み	<ol style="list-style-type: none"> 1 サービスとしての看護 2 看護サービスの提供の場 3 看護をめぐる制度と政策 4 看護サービスの管理 5 医療安全と医療の質保証 				講義
14	広がる看護の活動領域	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際看護の基本理念 2 災害時における看護 				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論		茂野 香おる 他		医学書院	
	看護者の基本的責務 定義・概念/基本法 /倫理		手島 恵		日本看護協会出版会	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する					

科目名	看護理論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護の歴史と看護理論の発展過程を概観するとともに、看護実践の基盤であり枠組みである看護理論について学ぶ。また、各看護理論の特徴や限界について学ぶ。 看護理論や中範囲理論を看護実践に応用することや看護現象を看護理論などにより分析・解釈して現場の看護に活かすことは、看護が学問的な専門性を保つとともに、看護師が専門職として認知されるためにも不可欠なことである。看護理論が看護実践や研究に果たす役割を理解することそして、看護実践の基盤としての「看護とは」について、自らが考える機会とすることを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	1 看護実践に必要な主な理論を理解する 2 F. ナイチンゲールおよびV. ヘンダーソンの看護理論の概要を説明できる 3 各看護理論の特徴を学ぶ					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	看護理論とは	1 看護理論とは何か 2 看護理論の分類 3 看護理論の変遷 4 看護理論が看護実践と研究に果たす役割				講義・演習
2~5	F. ナイチンゲール	1 人間の健康と環境 2 病気及び病人 3 観察について 4 看護について 5 看護する人に求める事柄				講義・演習
6~9	V. ヘンダーソン	1 人間とは、環境とは、健康とは、看護とは 2 常在条件と病理的状态 3 基本的看護の構成要素				講義・演習
10~13	看護理論家	1 理論家の背景・理論の源泉となったもの、主要概念・実践への適応等 (1) ヒルデガード・E・ペプロウ (2) ドロセア・E・オレム (3) シスター・カリスタ・ロイ (4) パトリシア・ベナー				講義・演習
14	中範囲理論	1 中範囲理論とは 2 看護における中範囲理論とは 3 危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 4 行動変容、行動強化に関する理論				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	看護覚え書 ー看護であること看護でないことー	F. ナイチンゲール 湯槇 ます 他 訳		現代社		
	看護の基本となるもの	V. ヘンダーソン 湯槇 ます 他 訳		日本看護協会出版社		
	ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂4版	黒田 裕子		日総研出版		
	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論	茂野 香おる 他		医学書院		
	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門	佐藤 栄子		日総研出版		
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する					

科目名	臨床看護総論		時期		時間	単位
担当教員	専任教員・臨床工学士		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護師は、看護学の知識や技術を統合し看護を実践する。そのため、「健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護」「健康状態の経過に基づく看護」や「主要な症状を示す対象者への看護」「治療・処置を受ける対象者の看護」等を学び看護援助の基盤作りとして当該科目を設定した。					
学習目標	1 健康障害を持つ対象の特徴を理解し生活の質を維持・向上する看護の実践方法を修得する 2 主要症状を示す対象の特徴を理解し看護の実践方法を修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	1 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 2 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 3 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ				講義 (専任教員)
3~5	健康状態の経過に基づく看護	1 健康状態と看護 2 健康の維持・増進を旨とする看護 3 急性期における看護 4 慢性期における看護 5 リハビリテーション期における看護 6 終末期における看護				講義 (専任教員)
6~9	主要な症状を示す対象者への看護	1 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 2 循環に関連する症状を示す対象者への看護 3 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 4 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 5 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 6 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 7 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 8 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 9 安楽に関連する症状を示す対象者への看護				講義 (専任教員)
10~12	治療・処置を受ける対象者の看護	1 輸液療法を受ける対象者の看護 2 化学療法を受ける対象者への看護 3 放射線治療を受ける対象者への看護 4 手術療法を受ける対象者への看護 5 集中治療を受ける対象者への看護 6 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 (1) 血液検査 (2) 穿刺液検査 (3) 内視鏡検査 (4) X線検査 (5) CT検査 (6) MRI検査 (7) IVR・血管造影等				講義 (専任教員)
13~14	医療機器の原理と実際	1 医療機器を安全に使うために (1) 医療ガス 2 測定用医療機器の原理と実際 (1) 心電図 (2) 血圧計 (3) パルスオキシメータ 3 治療用医療機器の原理と実際 (1) 人工呼吸器 (2) 吸引装置 (3) 吸入療法機器 (4) 輸液ポンプ (5) 除細動器 4 医療機器使用時の看護				講義・演習 (臨床工学士)
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [4]臨床看護総論		香春 和永		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学		青木 学 等		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 臨床検査		奈良 信雄 等		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート、講義の取り組み状況などを総合的に評価する					

科目名	看護の基本技術		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。また、看護技術とは、先端科学技術のように形のある物を物質的に作り出したり、便利な手段を開発したりすることではなく、看護の対象となる人々に安全・安楽に人間的で健康な生活を送ることができるように援助することである。そこで、看護実践能力の基礎となる看護技術論及び看護の共通基本技術の重要性を理解するため当該科目を設定した。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の構成要素及び原理原則を理解し、看護技術を実践する方法を修得する 2 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を習得する 3 看護における学習支援の方法を理解する 4 看護記録の意義と留意事項を理解する 5 報告の必要性と方法を理解する 					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~6	コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の定義と看護師に求められること 2 看護技術の基本原則 3 看護におけるコミュニケーションの必要性 4 看護におけるコミュニケーションの過程 5 コミュニケーションに障害がある対象への効果的な対応 6 対象を支援するコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> (1) 共感的態度 (2) アサーティブネス 				講義・演習
7~9	学習支援	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護における学習支援 2 対象の健康状態に合わせた学習支援の方法 				講義・演習
10~11	報告の必要性と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護における報告の必要性 2 看護における報告の種類 3 報告の必要な場面 				講義・演習
12~14	看護記録	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護記録の法的位置づけ 2 看護記録の規定 3 看護記録の意義・目的と機能 4 看護記録の構成（SOAP、フローシート等）と方法 5 記載・管理における留意点 <ol style="list-style-type: none"> (1) 記録管理と情報開示 (2) 守秘義務とセキュリティーの確保 				講義・演習
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2]基礎看護技術Ⅰ		有田 清子 他		医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3]基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、課題レポート、講義の取り組み状況などを総合的に評価する					

科目名	フィジカルアセスメント		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	<p>少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化に伴い、医療や看護を取り巻く社会状況は著しく変化してきている。また、在宅医療の基盤整備が促進され看護師の活躍する場も拡大し、より複雑で高度な医療を受ける患者が増加している。そのため、看護師には、看護の対象である患者を正しく「診る」ことのできる能力が必要不可欠となる。そこで、実際の患者の状態をリアルに表現できるハイブリッドシュミレータを用いて患者の病状や治療の経過に応じて身体状況の変化を予測し、病態に関連したポイントを重点的に観察することのできる正しい知識と技術、判断力を養うため当該科目を設定した。</p>					
学習目標	<p>1 ヘルスアセスメントの目的と看護の役割が理解できる 2 バイタルサイン測定、身体計測、系統的フィジカルアセスメントの技術が習得できる</p>					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~3	ヘルスアセスメント	<p>1 ヘルスアセスメントとは 2 フィジカルアセスメントとは 3 フィジカルアセスメントにおける基本技術 (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 聴診 (5) 打診</p>				講義
	ヘルスアセスメントにおける計測	<p>1 身体計測の留意事項と実際 (1) 身長 (2) 体重 (3) 皮下脂肪厚 (4) 腹囲</p>				講義・演習
4~14	バイタルサインの観察とアセスメント	<p>1 体温 2 脈拍 3 呼吸 4 血圧 5 意識</p>				講義・演習
	身体機能別のアセスメント	<p>1 フィジカルアセスメントの進めかた 2 呼吸系のフィジカルアセスメント 3 循環系のフィジカルアセスメント 4 消化系のフィジカルアセスメント 5 感覚系のフィジカルアセスメント 6 運動系フィジカルアセスメント 7 中枢神経系フィジカルアセスメント</p>				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I		有田 清子 他		医学書院	
	フィジカルアセスメントガイドブック第2版		山内 豊明		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					

科目名	看護過程	時期	時間	単位	
担当教員	専任教員	1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は、人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため、科学的な看護の理論的知識体系について理解し、看護における問題解決技法を修得するため当該科目を設定した。				
学習目標	看護過程の構成要素と展開方法の実際がわかる				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1~2	看護過程とは	1 看護過程の歴史的な概念 2 看護過程の必要性 3 問題解決技法と看護過程 4 看護過程の特性 5 看護過程の構成要素			講義・演習
3~6	データ収集 アセスメント	1 看護アセスメントの意義 2 情報収集の方法 3 ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組み 4 情報の分析 5 アセスメントの進め方 6 事例を用いた看護過程の展開（アセスメント）			講義・演習
7~8	全体像	1 全体像把握の意義 2 事例を用いた看護過程の展開（全体像）			講義・演習
9~10	看護問題の明確化	1 看護問題の明確化の意義 2 看護問題と看護診断 3 看護問題の種類 4 看護問題（看護診断）の表記方法 5 看護問題の優先順位の決め方 6 事例を用いた看護過程の展開（看護問題の明確化）			講義・演習
11~12	看護計画の立案	1 期待される成果（看護目標）の設定 2 看護介入計画の分類と表記 3 事例を用いた看護過程の展開（計画立案）			講義・演習
13~14	実施・評価	1 看護計画の実施手順 2 看護計画の実施に影響を及ぼす変数 3 看護における評価 4 患者の目標達成度の測定 5 目標達成に影響を及ぼす変数 6 看護計画の変更			講義・演習
15	試験（90分）	まとめ			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I		有田 清子 他	医学書院	
	看護過程に沿った対症看護 第4版 一病態生理と看護のポイントー		高木 永子 他	学研メディカル秀潤社	
	病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程		任 和子 他	照林社	
参考図書・資料等	ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践 看護アセスメント ー同一事例による比較ー 第3版		渡邊 トシ子	ヌーベルヒロカワ	
	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版		江川 隆子	ヌーベルヒロカワ	
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する				

科目名	生活の援助技術 I		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため看護師には、日常生活行動援助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護を実践することが求められる。そこで、健康障害のある患者の看護に応用できる援助技術を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 対象の生活を整えるための病床環境の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための活動と休息の援助技術を修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~8	病床環境	1 「環境とは」とその分類 2 健康生活における環境調整の重要性 3 望ましい生活環境 (1) 清潔と整頓 (2) 気温・気湿・気流 (3) 室内空気 (4) 採光 (5) 物音 (6) 感覚的満足 (7) プライバシー 4 病床の整備 (1) 病床の構成 (2) ベッドメイキング (3) 毎日の病床環境 (4) シーツ交換 (5) 個別性				講義・演習
9~14	活動と休息	1 看護におけるボディメカニクスの必要性 2 ボディメカニクスの実践 3 活動と運動、休息と睡眠の意義 4 体位変換の意義と同一体位による障害 5 体位変換、移動の援助方法				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II		有田 清子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		任 和子 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					

科目名	生活の援助技術Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため看護師には、日常生活行動援助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護を実践することが求められる。そこで、健康障害のある患者の看護に応用できる援助技術を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 対象の生活を整えるための食生活の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための排泄の援助技術を修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1～6	食事と栄養	1 人間にとっての「食べる」ことの意義 2 食習慣の成り立ちと食の安全 (1) 食事と日常生活 (2) 食の安全(社会の動向) 3 食事と栄養のアセスメント 4 食欲と摂食行動 (1) 食欲の調節：食欲を左右する因子 (2) 消化・吸収及び排泄の機構 5 医療施設で提供される食事の種類と形態 6 食事の援助方法 (1) 健康な食習慣と食事管理 (2) 食欲増進のための援助 (3) 食事介助(誤嚥予防含む)				講義・演習
7～14	排泄	1 排泄の意義 2 排泄に影響する要因 3 排泄に関するアセスメント 4 排泄の援助方法 (1) 健康的で自然な排便習慣をつけるための援助 (2) トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 (3) 便器・尿器を使用する患者の援助 (4) おむつを使用する患者への援助(陰部洗浄含む) (5) 排便困難な患者への援助 ア グリセリン浣腸 イ 摘便				講義・演習
15	試験(90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		任 和子 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					

科目名	生活の援助技術Ⅲ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため看護師には、日常生活行動援助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護を実践することが求められる。そこで、健康障害のある患者の看護に応用できる援助技術を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 対象の生活を整えるための身体の清潔の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための衣生活の援助技術を修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1～11	身体の清潔	1 身体の清潔の意義 2 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚粘膜の構造と機能 (2) 清潔援助の効果 3 対象の状態にあった援助方法の選択 (1) アセスメント (2) 援助方法の決定 (3) 援助の留意点 4 援助方法 (1) 入浴、シャワー浴 (2) 清拭 (3) 洗髪 (4) 手浴、足浴 (5) 陰部洗浄 (6) 口腔ケア (7) 整容				講義・演習
12～14	衣生活	1 衣類を用いる意義 2 衣生活援助の基礎知識 3 対象の状態にあった援助方法の選択 4 援助方法 (1) 寝衣の選択 (2) 寝衣交換				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		任 和子 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					

科目名	診療の補助技術 I		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1 年次	後期	30時間	1 単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため、診療の補助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護技術を修得することが重要である。そこで、治療・処置の効果が最大限に達成されるよう支援する援助方法を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 与薬の看護技術を習得する 2 輸血の看護技術を習得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~12	与薬	1 薬事法と日本薬局方 (1) 薬物の管理 (2) 与薬の経路 (3) 誤薬防止の与薬方法 2 与薬 (1) 経口与薬法 (内服薬・口腔内薬) (2) 直腸内与薬法 (3) 注射法 ア 薬液の吸い上げ (アンプル、バイアル) イ 注射の実施方法 (ア) 注射の安全・安楽 (イ) 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射 (ウ) 静脈内注射 (エ) 点滴静脈内注射 3 その他の与薬法 (1) 経皮的与薬 (2) 点眼 (3) 点鼻 (4) 吸入				講義・演習
13~14	輸血	1 輸血療法の基礎知識 2 輸血療法の方法				講義
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II		有田 清子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		任 和子 他		医学書院	
	医療安全ワークブック 第3版		川村 治子		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					

科目名	診療の補助技術Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため、診療の補助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護技術を修得することが重要である。そこで、治療・処置の効果が最大限に達成されるよう支援する援助方法を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 感染防止の看護技術を修得する 2 創傷管理の看護技術を修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1～8	感染防止	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策 3 標準予防策の技術 4 感染経路別予防策 5 洗浄・消毒・滅菌 6 無菌操作と滅菌物の取り扱い 7 感染性廃棄物の取り扱い 8 針刺し防止策 9 カテーテル関連血流感染対策 (1) 中心静脈カテーテル 10 導尿の援助				講義・演習
9～14	創傷管理	1 創傷管理の基礎知識 2 創傷の処置方法 3 包帯法 4 止血法				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		任 和子 他		医学書院	
	医療安全ワークブック 第3版		川村 治子		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					

科目名	診療の補助技術Ⅲ		時期		時間	単位
担当教員	専任教員		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため、診療の補助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護技術を修得することが重要である。そこで、治療・処置の効果が最大限に達成されるよう支援する援助方法を修得するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 診療・検査に伴う看護技術を修得する 2 呼吸・循環を整える看護技術を修得する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~7	診療・検査に伴う看護技術	1 診療における看護の役割 2 検査の目的と検査時における看護の役割 3 各生体検査の概要と看護 (1) X線撮影 (2) コンピューター断層撮影 (3) 磁気共鳴映像 (4) 内視鏡検査 (5) 超音波 (6) 肺機能 (7) 核医学 4 穿刺の介助 (1) 胸腔穿刺 (2) 腹腔穿刺 (3) 腰椎穿刺 (4) 骨髄穿刺 5 検体の採取と取扱い (1) 尿検査 (2) 便検査 (3) 喀痰検査 (4) 血液検査 6 静脈血採血 7 検査値の読み方 血液検査				講義・演習
8~14	呼吸・循環を整える看護技術	1 酸素吸入療法 (1) 援助の基礎知識 (2) 中央配管・酸素ボンベの取り扱い 2 一時的吸引：口腔・鼻腔 3 体位ドレナージ 4 吸入：ネブライザー 5 体温管理の技術 (1) 温罨法 (2) 冷罨法（氷枕） 6 末梢循環促進ケア				講義・演習
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 臨床検査		奈良 信雄 他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学		青木 学 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版		任 和子 他		医学書院	
	医療安全ワークブック 第3版		川村 治子		医学書院	
参考図書・資料等	看護技術がみえる2 臨床看護技術 メディックメディア					
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する					